

別表 1 CPD の課題とその区分

区分	課題項目		記号
一般共通課題	倫理	倫理規定、技術倫理、職業倫理など	(A)
	環境	地球環境問題、生態学など	
	社会経済動向	国内外の社会動向、産業経済動向など	
	法律・契約	関連法令、知的財産権法、契約制度など	
	教養	語学(プレゼンテーション、コミュニケーション)、歴史、技術史など	
	その他	技術動向(新技術、情報技術) 砂防行政・事業と一般社会との係わりなど	
技術課題(1)	砂防基本計画、流域総合土砂管理計画など		(B-1)
	水文、土砂流出、地形・地質など		
	土石流、地すべり、崩壊、地震砂防、火山砂防、環境砂防、緑化、流木、雪崩など		
	警戒避難、危機管理、指定地管理など		
	砂防構造物(構造設計、機能評価、施工、管理など)		
	材料、施工法など		
	環境保全、環境管理、環境システムなど		
	新工法、新技術の開発に係わる調査・研究、災害調査などの事例調査・研究など		
技術課題(2)	砂防調査法(GIS, 航空写真、リモセンなど) 環境アセスメント、環境調		(B-2)
	情報工学、情報化技術、コンピュータプログラミングなど		
技術課題(3)	社会資本整備論(費用対効果分析・事業評価手法) 安全管理、品質管理など		(B-3)
その他	上記以外で技術士のCPDに値すると判断されるもの		(B-4)

注1) 区分の説明

一般共通課題：基礎的な共通一般に係わるもの

技術課題(1)：砂防の専門的な技術分野に係わるもの

技術課題(2)：砂防に対する周辺の(学際的)技術分野に係わるもの

技術課題(3)：総合的な技術監理に係わるもの

注2) 課題項目の説明

課題項目でいう砂防とは、砂防学会が対象としている砂防、治山等の分野を意味する。

別表2 教育形態とCPD時間

教育形態	番号	内容	CPDF (重み 係数)	CPD 時間 = CPDF × H(h r) 又は M(min)	
講習会、研修会、研究発表会、講演会、シンポジウム等への参加 ^{*1}	1	講習会，研修会等への参加	1	H	
	2	研究発表会、講演会、シンポジウム等への参加	1	H	
論文等の発表	3	口頭発表（法人格を持つ学協会等での発表、講演 ² ）	0.4	0.4M	
	4	口頭発表（前記以外での発表、講演 ² ）	0.2	0.2M	
	5	論文発表（学術誌への査読付き論文発表）	-	40（1論文当たり）	
	6	論文発表（一般論文、総説等）	-	10	
	7	技術図書の執筆	3又は原稿用紙1枚につき1	3H又は原稿用紙の枚数（1件当たり最大30）	
企業内研修及びOJT ^{*3}	8	企業内研修プログラム受講			
	9	OJT			
技術指導	10	大学、学術団体等が開催する講習会、研修会等の講師	-	10	
	11	1	海外砂防技術者研修の（国内）講師 ^{*4}	-	10
		2	海外砂防技術者研修の（海外派遣）講師 ^{*4}	-	30（1回当たりの上限）
	12	その他、社内研修会の講師 ^{*3}			
	13	公共機関、民間企業等に対する砂防技術指導 ^{*5}	3	3H（1課題当たりの上限10）	
業務経験	14	成果を上げた業務等（責任者）	-	20	
	15	成果を上げた業務等（担当者）	-	10	
	16	特許取得（発明者に限る）	-	40（1件当たり）	
その他	17	技術会議への出席（議長や委員長の場合）	2	2H	
	18	技術会議への出席（委員や幹事の場合）	1	H	
	19	大学、学協会（本学会を含む）、研究機関（企業を含む）における研究開発・技術業務への参加、国際機関への協力等	-	20（1年間当たりの上限値）	
	20	公的な技術資格の取得	-	最大20（1資格当たり）	
	21	自己学習（学会誌購読等）	0.5	0.5H	

*1 本学会、砂防関係機関・団体が主催又は本学会が共催、協賛、後援するものを対象とする。

*2 本学会、砂防関係機関・団体、大学、及び民間団体等が開催するもので、連名者（共著者）もこれに準じる。

*3 本学会認定プログラムの対象外であり、CPDF(重み係数)、CPD時間は空欄とする。

*4 JICA等の公的機関の依頼による国内及び国外研修が対象となる。

*5 通常の業務委託は対象外とする。